

令和2年度 広島県立図書館資料選定委員会議（自然科学部門）  
会議概要

1 開催日

令和2年10月15日（木） 午前9時～午後0時

2 出席者

(1) 委員（敬称略，専門部門の日本十進分類法の配列順）

化学 網本 貴一（広島大学大学院人間社会科学研究科 准教授）

地学 吉富 健一（広島大学大学院人間社会科学研究科 准教授）

医学 井上 誠（県立広島大学保健福祉学部看護学科 准教授）

(2) 職員

山本館長，植田副館長，正井調査情報課長，平田資料課長，松井，茅野，中原，前田，山根

3 会議記録

(1) 開会

(2) 館長挨拶

(3) 委員紹介（自己紹介）

(4) 職員紹介

(5) 概要説明

ア 資料収集について（資料課長）

質疑応答

イ 利用状況について（調査情報課長）

質疑応答

(6) 館内案内

(7) 意見交換

4 協議概要

- 大学初年度あたりで使用する専門書や，専門書の入門書を対象としているということであったが，実際に書架を見ると，最新の資料はもとより，出版年が古い資料もしっかりと揃っており，継続的に収集されていると分かった。学生たちに利用してほしいと思っている。このような公立図書館が県内に一つあるのは，大変心強いと思う。
- 現在行われている資料展示にはとても感動した。ここでしか見られないものも置いてあり，無料であるのでなおうれしいが，金を払って見てもよい内容だと思う。
- 蔵書は，（利用する）対象を幅広く考えて構成されていると思う。専門性については，大学や研究機関にはどうしても負ける。
- 最近では，オンライン化やデータベースの電子化が進んでいる。図書館仕様のものが使えるようになるとうい。紙媒体での保存も大切であると思うが，百科事典，実験科学講座，化学便覧，理科年表などは電子媒体の方が利便性が上がる。また，さかのぼってデータを検索したり，調査したりすることは，教育的な意義も大きいと思う。
- 蔵書の構成については，収集方針で市町の公共図書館よりも専門的な資料を対象としているということであるが，専門書に限定するとどうしても大学図書館には劣る。最近の看護に関する本ではイラストが多い，パッと見て頭に入るようなわかりやすい本が多い。そういう資料でないと，手に取って利用してもらえないのではないかと思う。今の若者は，学習手段の一つに動画や漫画の利用

が多くなってきた。一般県民が対象と考えるならば、もう少しそういった資料を充実した方が良いのではないか。

- 以前は、難しく書かれた資料で学習するというのが主流であったが、勉強の仕方が変わってきている。学習の手段として動画、漫画、イラストは必須だと思う。
- 物理、化学も手にとってわかりやすい専門書の入門書もたくさん出ている。ポリシーに関わってくるので検討されたらよい。
- 近隣の高校生、中学生が探究的な学びを深めようとした場合、学校教育及び学校図書館だけでは不十分なときに、県立図書館に来て、自分たちが取り組もうとしている課題にふさわしい蔵書が見つければよいと思う。また、キャリアについてふさわしい資料を利用してもらえたらと思う。
- 高校生、大学生はキャリアパスを考える上で、現在の学びが直接将来につながっている。県内には、化学オリンピックや数学オリンピックに挑戦するような意欲的な学生たちがいる。自分の学びの少し上、また社会とのつながりを考える時に、利用してもらいたいのは、専門書の入門書あたりになると思う。大学の初年度を対象とした本が多いが、青少年に読んでほしい本もあるとよい。
- 高校生の利用については、高校教員がその情報を知っていなくては生徒には伝わらない。是非とも先生方に知ってもらい、先生から生徒への（情報の）流れを作らなくてはいけない。各学校図書館では、このレベルはとても準備できない。（大学）附属学校の先生でも知らないのではないかと思う。
- 雑誌は「継続性」が重要だ。やめてしまうと、10年後になぜやめたのかが問われる。選定よりも、（購読の）中止には大きい決断がいる。慎重にしなければならないと思う。
- 書庫には、こんな（貴重な、探していた等）本があるという気づきがあった。開架の蔵書だけを見ていては、書庫の蔵書の価値に意識が向かなかった。開架だけで全部だと思う人がいると思う。
- 現在行われている「子供・若者の育成支援」の展示は、大変充実していると思う。引き続き、こういった展示を行ってほしいと思う。
- 小学生、中学生向けの（図書館と資料を紹介する）企画があればよいと思う。
- 大学では、学びをつなげていくガイダンスを実施しているが、一般県民向けにオンデマンドで実施できるコースのようなものを準備してもよいかもしれない。